

講義名		英語で学ぶ経済				授業形態				
担当教員	内山 勝久		開講期・曜日・時限		後期 火曜日 2 時限					
			単位数		2	履修開始年次		2 年生	ナンバリング・コード	

主題と概要
この授業は、新しい英語教材を使用して経済（学）の基本概念を習得することを目的とします。 経済活動のグローバル化に伴い、好むと好まざるとに関わらず我々が英語に接する機会は増えています。ビジネスの現場でも英文資料を活用し、英語でプレゼンや交渉できる人材が求められています。 この授業では、指定の教科書を用いて経済（学）の基本概念や日本経済・世界経済の潮流を英文の教科書を読みながら理解し知見を深めます。授業では、その場で指名された学生にテキストを朗読してもらったり、受講生同士でディスカッションして得られた成果を発表してもらう予定です。各人の積極的参加が期待されます。さらに、教員が重要語句や関連事項を補足説明したりすることで授業を構成したいと考えています（授業での使用言語は、基本的に日本語です）。

到達目標
各受講生が、 （１）経済（学）に関する基本的幅広い知識を身につけ、それを活用して時事的な経済問題を理解し、それらについて他者に説明できるようになること。 （２）経済（学）で頻繁に登場する用語を英語で理解できるようになり、さらに、英字新聞の平易な経済記事や英語ウェブサイトの経済情報を読んで必要な情報を集められるようになること、を目指します。

提出課題
・復習を兼ねた簡単な課題をほぼ毎回の授業で課す予定です。教科書だけでは物足りない場合には、英字新聞の経済・ビジネス記事に関連した課題を課すことも考えています。 ・また、この授業では予習・復習を重視しますので、各受講者の予習・復習の成果を示す資料（自筆ノートなど）を期末に提出してもらう予定です。 ・期末には、レポート課題を提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
・提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準
・平常点（授業に対する受講生の貢献度（発言回数、発言内容、発表や朗読の質、毎回の課題提出など））70％、期末レポート課題30％の比率で評価します。 ・優れた発言・発表や質の高いレポートに対しては、満点を超えて加点評価することがあります。 ・5回以上欠席すると単位認定が困難となります。

履修にあたっての注意・助言他
・各受講生の十分な予習が授業の前提となります。予習の時間確保が難しい学生の履修はお勧めしません。 ・この授業の目的は経済（学）の理解にありますので、授業では教科書の英文解釈に関する文法的な説明などは行いません（各自で補完することになります）。教科書には日本語訳が付されていますが、正確に読解するには英辞書2冊～2冊レベルの英語力が必要です（十分な英語力がないと苦戦することになります）。 ・英語力向上を第1の目標にしたい学生には、この授業よりも、語学系科目の履修を推奨します（担当教員の専門は英語教育ではないので、英語力向上のための十分な指導はできません）。 ・特別な理由のない大幅な遅刻や途中退室は欠席扱いとします。 ・わからない点は入浴を後援するよりも教員に質問する方が効果的です（質問力も高まります）。質問等で発言が必要な場合は挙手の上で行ってください。

教科書				
・新版 英語対訳で読む「経済」入門。	大島朋剛（監修）・Elizabeth Mills（英文監訳）	実業之日本社	1,100	9784408339504

参考図書				
なし。				

その他
・授業内容の補足説明用に、担当教員が作成した資料（PDFファイル）を授業支援システム経由で毎回配布します。 ・参考図書は授業中に適宜紹介します。

授業計画
第1回 ガイダンス： 授業の進め方について 第2回 Chapter 1： Fundamental Japanese Economy (1) [1～5] 第3回 Chapter 1： Fundamental Japanese Economy (2) [8～12, 16] 第4回 Chapter 1： Fundamental Japanese Economy (3) [6～7, 13～15, 17] 第5回 Chapter 2： Government and Economy (1) [18～22] 第6回 Chapter 2： Government and Economy (2) [23～27] 第7回 Chapter 3： Companies and Economy [28～33] 第8回 Chapter 4： Finance and Economy (1) [34～38] 第9回 Chapter 4： Finance and Economy (2) [39～43] 第10回 Chapter 4： Finance and Economy (3) [44～48] 第11回 Chapter 5： World Economy (1) [49～53] 第12回 Chapter 5： World Economy (2) [54～58] 第13回 Chapter 5： World Economy (3) [64～67] 第14回 Chapter 5： World Economy (4) [59～63] 第15回 Chapter 6： History of Japanese Economy [78～82] [] 中の数字は、教科書中の本文の番号を表します。 授業の進捗状況により授業計画を変更する可能性があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
・英語教材を使用するので、語学の授業のように予習・復習を重視します。 ・授業前に、（１）予め教科書の該当箇所を読み、流暢に朗読できるようになることを求めます（音読を重視します）。さらに（２）内容に関して不明な点を整理しておいてください；合計で約1.5時間/回。 ・授業後は、（３）課題に取り組むとともに、（４）教科書の英文を暗唱できる程度まで声に出して繰り返し読み込んでください。（５）さらに、授業の要点や、授業で興味を持った経済（学）的事項について、新聞や経済雑誌、信頼できるウェブサイトなどで詳しく調べた点をノートにまとめてください；合計で約2.5時間/回。 ・予習・復習で作成したノートは期末に提出してもらう予定です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この科目の「到達目標」を達成することで、経済学の基本的知識を身につけて時事問題を理解することができるようになり、さらに、経済問題を中心に、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題や解決策を提案することができるようになります。 これは、経済学部経済学科の学生が卒業時に獲得しておくべき資質・能力である、人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身につけ、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
・授業後の課題などにクリックカー（レスポ）を利用することがあります。

実務経験の有無及び活用

備考